

山五小

# おひさま通信

「山形市立第五小学校」で検索

平成29年度  
7月号

山形市立第五小学校  
平成29年7月26日  
校長 三森 聡

◆◆◆ 一人一人のオリジナル模様をつないで ◆◆◆  
**縦割り班活動で七夕飾りを制作**  
七夕集会 7.13

縦割りによる「なかよし班」の活動として、七夕飾りに挑戦しました。

小さく折った色用紙にハサミを入れいろんな模様をみんなで楽しむとともに、それを班でつなぎ合わせました。32班分の飾りがステージ上に持ち寄られると、なんと仙台風の

素敵な七夕飾りができあがりしました。昨年度までは、笹竹に短冊をつけた七夕飾りをしていましたが、今回初めて挑戦した仙台風の七夕飾りは、とてもきれいに仕上がったと子ども達に好評でした。



なかよし班で制作した「仙台風七夕飾り」



どんなふうにはサミで切れ目を入れようかな

## 体験を通して、どんな学びを獲得できたか

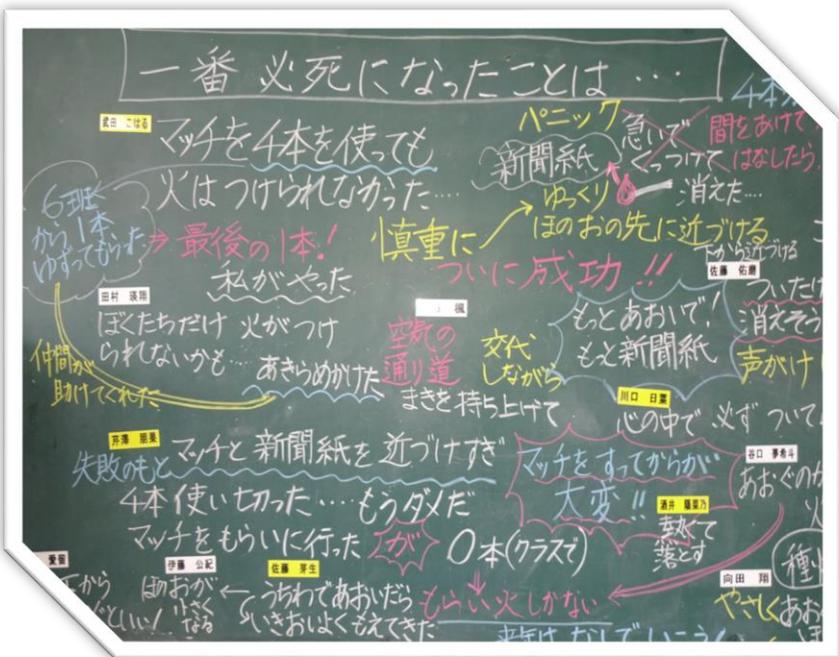


## 振り返りで 再認識！！

少年自然の家での野外体験活動として、4年生が火起こしからの炊飯活動に初めて挑戦しました。班に用意されたマッチ棒の数はわずか4本、なかなか薪に火が燃え移らずに全部使い切ってしまった班もあり、かまどの火を起こすことの難しさを体験しました。



貴重なマッチの火を大事にして(4年生)



活動の過程を改めて振り返ることで、次の活動に生きるための知恵を知る

子ども達にとってマッチを擦るという行為は、ほぼ初めての経験になります。家庭の中においては電気やガスのスイッチやボタンを押すだけの便利な生活であることから、マッチ箱を置いている家も無くなってきているといえます。そもそも、子ども達がマッチを使う経験をするのは、4年生の理科で学習するアルコールランプに火をつける時とこの野外での炊飯活動だけになるのです。

それだけに、かまどでの火起こしの活動を改めて子ども達に振り返らせることは、自己成長を認識するとともに、次年度にもしっかりとつながることと考えております。

## ●●●生活マナーの課題を全校で話し合う●●●

“日頃の生活の様子から 自分の行動を考える” -ジュニプロ委員会企画- 7/11



ジュニアプロジェクト委員会のメンバー



日頃の生活を寸劇に



活発に挙手する子ども達

◆日頃の生活の場면을ジュニプロ委員が寸劇で全校児童に披露

Q1 「廊下の歩き方はどうだろうか？」

Q2 「今のあいさつの仕方、どう思う？」

———活発に意見を出し合う子ども達———



### —ぼく・わたしの意見—

- ・歌を歌いながら歩くと教室で静かに勉強している人の迷惑になると思う。
  - ・廊下を横に広がって歩くと、前から来る人とぶつかってしまうので危ないよ。
  - ・片方の人の挨拶の声が小さくて心がこもっていると感じなかった。
  - ・声が小さくとも、双方会釈を交わしていたのだからいいのではないかな。等々
- ※ジュニプロの寸劇に対して次々と意見が飛び交いました。多くの全校生を前にし堂々とマイクをつないで意見を言えたこと、とてもたくましさを感じました。